

Q 子ども達の未来に光を当てる取組

うちの
内野 嘉広 議員



A 子育て政策の充実を図り、市の魅力を高めていきたい

問 子育て環境及び支援の現状と今後について。

答 市では、鶴ヶ島版ネウボラを開始し、妊娠、出産から子育てまで切れ目のない支援を行っている。子どもをもう一人産みたいと思える、安心して子どもを産み育てられるまちを目指していく。

答 鶴ヶ島市まち・ひと・しごと創生総合戦略において、「子育て世代が元気に生活できるまちづくり」を基本目標の一つとして掲げ、子育てしやすい環境の整備や学校教育環境の整備等に取り組んでいる。また、若い世代が本市に転入定住しやすいよう、民間機関と連携を図りながら、条件の良い住宅ローンなどの取組を進めている。



問 行政のマーケティング戦略の必要性について。

答 特定のターゲットを設定し、そのニーズを満たすものを用意して効果的にプロモーションするマーケティング戦略は、行政にも有効であると認識している。この手法を効果的に取り入れ、他の自治体との差別化を図り、若い世代から選ばれる魅力ある施策を展開していきたい。

◎その他の質問 鶴ヶ島市の都市政策について

Q 定住人口増加政策とインフラ整備

すぎた やすゆき
杉田 恭之 議員



A ハード事業とソフト事業を効果的に組み合わせしていく

問 人口増加政策と交通インフラ整備の考え方は。

答 人口増加施策として、人口減少速度の抑制等を図るため、若い世代の転入促進等に取り組んでいる。また、交通インフラの整備は、本市の魅力を高め、人口の社会増にもつながると考えられる。

問 次なる都市計画道路整備は。

答 鶴ヶ島日高線や共栄鶴ヶ丘線の優先度が高い。農業大学校跡地周辺の整備完了後、各路線の課題等を検証していきたい。

問 一本松駅南口開設の動向は。

答 南口の開設とバリアフリー化を一体的に行えるよう東武鉄道株式会社と協議してきた。今後も粘

り強く協議していく。

問 人口増加政策の上で、ハード政策とソフト政策との関連は。

答 例として、保育所の整備と子育てに関する相談体制の充実など、ハード事業とソフト事業を効果的に組み合わせる必要がある。

問 最もアピールしたい本市のセールスポイントは。

答 安心と安全である。自然災害に強いというPRポイントがあり、子育て支援や交通安全対策などに加え、良好な交通アクセス、身近な自然なども織り交ぜ、「住みやすいまち」というセールスポイントをまとめていきたい。

